



GFP優良事例

北海道チクレン農業協同組合連合会
(北海道)

業種：畜産品加工・販売 生産規模(頭数)：8000頭

輸出品目

輸出先国

赤身牛肉
牛肉加工品

× タイ
ベトナム

GFPの各取組を通じて輸出計画策定・販促を実施

輸出取組

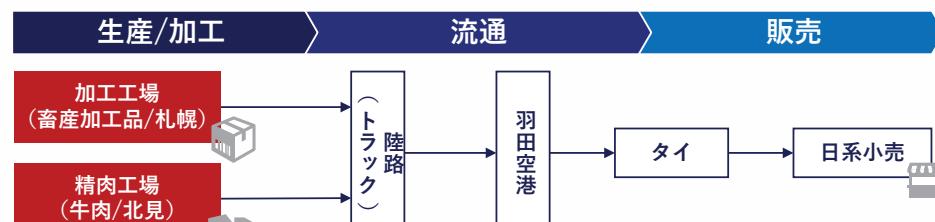
輸出の背景/経緯

- 畜産農家様の経営安定を目的に、更なる販路拡大に向けて国外への展開を検討
- 既存の国内取引事業者に相談した結果、タイでのキタウシリの取引が始まったことが輸出のきっかけ
- 主要輸出先国であるタイで流通する牛肉は元々赤身肉が主流であり、受け入れられる可能性が高いと想定
- アジア圏を中心に日本産・北海道産はブランドとしての認知度が高く、消費者への訴求力も高いことから、赤身肉の輸出拡大余地があると判断
- 現在は、ベトナム向けに牛肉輸出を進めており商社・現地でのカッティング工場と具体的な輸出方法を検討

輸出取組内容

- 北海道ホルスタイン赤身牛肉の自社ブランド「キタウシリ」を輸出メイン品目に掲げ、タイ・ベトナム・ミャンマー・マカオ向け輸出の工場認定を取得し、輸出可能な体制を構築
- グローバル产地づくり推進事業に参画し、新商品開発を前提に輸出計画を立案
- 現在はタイを中心に輸出を進めており、日系小売での提供を拡大中であり、マカオ等への輸出拡大・他国向け施設認定取得も視野に検討中
- 親日国のタイでは”都道府県産”（＝北海道産）牛肉が高く評価され、シンガポールでは健康志向の高さから安心安全のイメージがある北海道産が好まれる傾向
- 直近では、GFPのビジネスパートナーマッチングを活用してGFP事務局から商社を紹介してもらい、ベトナム輸出に向けた取組を継続中

輸出モデル



生産について、北海道内のJA・農家様と委託契約し、“キタウシリ”という赤身肉を生産し、自社の工場で精肉している。加工についてはグループ会社の北海道チクレンミートで加工を実施

北見市の精肉工場・札幌市の加工品工場から陸路で羽田空港まで畜産品を輸送している。羽田空港からタイへ輸出。牛肉は、チルド・冷凍双方での輸出が可能であり、先方のオーダーで適宜対応が可能

日系小売は既に商流のある店舗り上げ拡大が期待でき、関係性強化が重要。今後展開予定の日系外食店の有望チャネルとして、特に牛肉消費量が多い焼肉店・すき焼き・しゃぶしゃぶ店が挙げられる

GFPを通じた取組成果

輸出額推移(GFP参画前後)

GFP参画前(2018年)

60万円

+2,874万
(4890%)

GFP参画後(2021年)

2,934万円

GFPを活用した輸出成功ポイント

GFP推進企画の有効活用で輸出パートナー取引を拡大

課題 1

キープレイヤーとの関係性の構築・強化によって輸出体制を構築したい

ビジネスパートナー マッチング

オンラインマッチング イベントで関係構築

マッチングイベントを通じて様々な輸出事業者の商談を実施。商談の結果、新規の輸出先国へサンプルを送付するなど、販路の拡大に繋げた



オンラインマッチング画面

課題 2

“商社任せ”ではなく、自社提案力強化によって輸出を拡大したい

提案力強化の機会

GFP超会議登壇で 提案力強化

GFPトップランナーとしてタイにおける赤身牛肉の輸出実績と赤身牛肉市場の可能性・“北海道ブランド”的可能性についてプレゼンを実施



GFP超会議登壇の様子

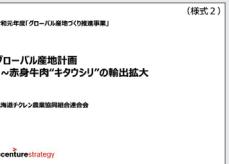
課題 3

コロナウイルスの影響を鑑みて輸出計画を変更する必要があった

輸出戦略の再検討

グローバル产地づくり 推進事業の採択

緻密な現地調査に基づく、グローバル产地計画を策定しつつ、コロナ影響に鑑みて柔軟に計画内容の見直しを行ながら情勢変化に対応



グローバル产地計画資料

GFPを通じて～輸出取組の感想・今後の展望

畜産農家様の経営安定のため、国内に留まらずタイを中心に海外への販路を拡大することができました。今後も畜産農家様を守り、畜産農家様の所得向上に少しでも貢献できるよう、キタウシリを世界へ販売していきたい思いを強く持ち、GFPを通じて輸出拡大を進めてまいります！



福佐悠太 様



GFP優良事例

十勝清水町農業協同組合(北海道)

業種：農業協同組合 取扱金額：315億円

2022年 選定

輸出品目	輸出先国
黒にんにく にんにく 調味料 (マヨネーズ・ ドレッシング)	台湾
X	香港
	フィンランド

JA主導による生産体系の省力化・販促で生産者所得向上

輸出取組

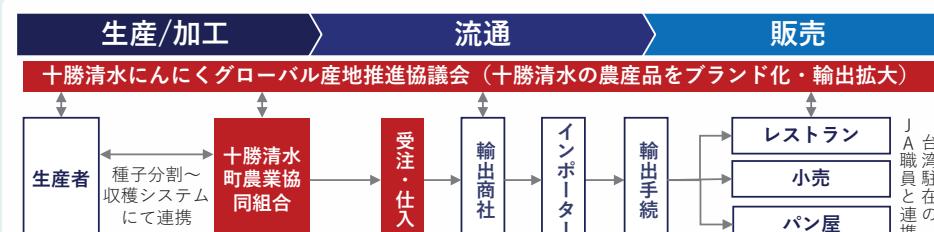
輸出の背景/経緯

- 高齢化・労働力不足等の不安定要素に対応するため、2017年頃より生産体系の省力化及び面積拡大を目的としたプロジェクトを始動
- 2019年よりGFPグローバル産地づくり推進事業を活用し、十勝清水にんにくグローバル産地推進協議会を立ち上げ。世界に通用し得る生産基盤の確立を目指す
- 当事業にて、世界第2位のにんにく輸出国であるスペインの現地視察後、Broch社製の一貫システムを導入し、生産体系の省力化・面積拡大
- 現地市場調査を基に、JA加工工場にて規格外品を活用した“にんにく調味料”を積極的に商品開発・販路拡大
- 今後は品目拡大(大豆・小豆)を図りながら、生産者の所得向上に努める

輸出取組内容

- イタリア料理・スペイン料理等が、アジア各国でも人気を博しており、にんにくの需要は、世界的に上昇。世界に通用する「にんにく」として産地形成・輸出取組に着手
- バイオマス資源から有機肥料「しみず有機」を生産し、耕種農家が利用して生産した作物を「とれたんと」としてブランド化する循環型農業を展開
- スペインの省力化システムを導入し、JA主導による一元的な種子分割～収穫のシステム構築を推進。単収拡大・効率化推進に寄与し、平畠によりマルチ貼りの手間が大幅に削減
- 7年の歳月をかけて開発したウイルスフリー由来の優良種子により生産性向上や単位収量が向上
- 台湾出身の職員(現地滞在)を採用し、現地レストラン・小売を中心に営業活動を加速。台湾の人気パン屋と連携した黒にんにくベーグルを開発・販売や、有名シェフ・インフルエンサーと連携したプロモーションを実施

輸出モデル



GFPを通じた取組成果

輸出額推移(GFP参画前後)

GFP参画前(2019年)

0円

+150万

GFP参画後(2021年)

150万円

GFPを活用した輸出成功ポイント

スペイン視察を通じて輸出体制確立・積極的に商談活用

課題1

高齢化や労働力不足に対応するため、生産体系の省力化や面積拡大に向けた取組を推進したい

GFPグローバル産地づくり推進事業

スペイン視察を踏まえた生産体系確立

世界第二位のにんにく輸出国であるスペインを視察し、現地の風土や食文化、生産技術を学ぶことで、生産体系省力化に向けた機械導入やマーケットインでの商品開発に成功



課題2

GFPメンバーに向けた情報発信・連携を図りながら、新たなネットワークを構築したい

GFP輸出産地セミナー&マッチング/GFPカタログ

GFPメンバーとの関係構築・取組PR

GFPイベントでの登壇・取組紹介を通じて、地域商社：萌すとマッチング。商談会時にGFPカタログを提示することで、十勝清水町の取組・商品に関心を得てもらえるようになった



課題3

GFPネットワークを活用し、新規輸出国・商流を確立することで、安定輸出を目指したい

GFPビジネスパートナーマッチング

新規販売国・バイヤーとのマッチング実現

GFPビジネスパートナーマッチングを通じて、EU向け輸出商社：Japonteとマッチングした結果、フィンランドのJapanフェアに出品・黒にんにくの初輸出に成功した



GFPを通じて～輸出取組の感想・今後の展望



当JAは、輸出に関してスタートラインに立ったばかりであり、全国優良企業様が参加されておりますGFPに参画させて頂くことにより多くの事を学び、情報を得ることができました。今後は、当JAの農畜産物を広く周知し皆さんと一緒に行きたいと考えておりますので是非御相談ください。



GFP優良事例

大潟村農産物・加工品輸出促進協議会
(秋田県)

業種：支援組織 生産規模：域内で118億円

輸出品目	輸出先国
グルテンフリー餃子	アジア
パスタ	米国
甘酒	EU等

着実な輸出につなげる生産から販売までの体制構築

輸出取組

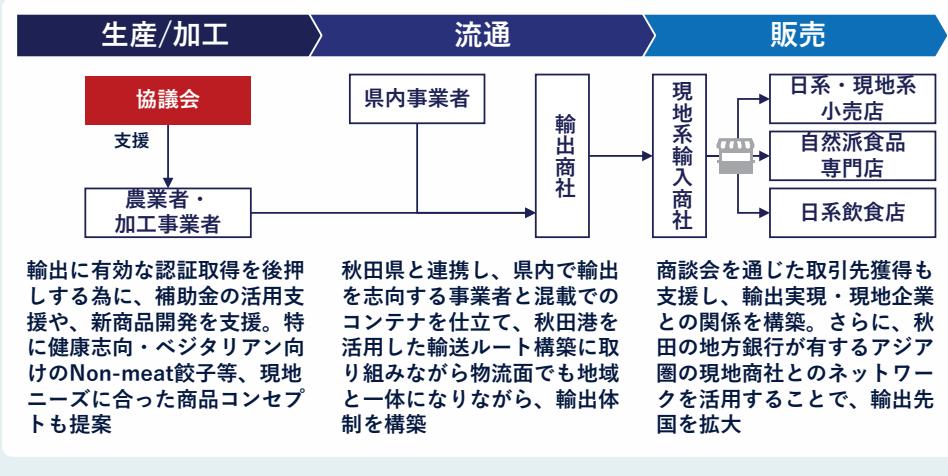
輸出の背景/経緯

- 国内のコメ消費が減少傾向にある中、輸出を通じた新規の販路獲得を目的とし、大潟村とJA大潟村、村内企業などが、村農産物・加工品輸出促進協議会を設立。設立後これまで5年にわたり、輸出量増加に向けた活動を推進
- 域内生産者が、事業者単独では資金・ノウハウ面で対応できなかった、輸出向け認証取得(ISO22000・FSSC22000・グルテンフリー・ハラル等)や、展示会を通じた商談獲得等をサポート
- 海外の健康志向消費者を中心に消費が拡大中の、グルテンフリー消費を機会とした商品開発を支援(グルテンフリー餃子・パスタ、甘酒、コメ、PBの加工食品等)

輸出取組内容

- 会員企業のニーズに合わせた直接・間接輸出の体制整備を支援。直接輸出のスキームでは、各國の市場調査を進めながら、テスト輸送に対応可能な現地業者とのネットワークを構築
- グルテンフリーの加工食品を中心とした輸出に加え、各國ニーズに合わせた新規商品開発と輸出ルート確立に向けた取組を継続実施中。コメの高付加価値化による輸出機会も模索
- これまで、EU・香港・台湾・中国・シンガポール・米国・豪州に輸出
- 認証取得支援では、グルテンフリー、コーチャニ次いで、2021年初めにはハラル認証の取得により、インドネシア等イスラム圏への輸出拡大を志向
- 県内業者・地銀がネットワークを有する海外の商社等とも連携し、輸送の効率化・販売先の開拓を継続推進中

輸出モデル



GFPを通じた取組成果

輸出額推移(GFP参画前後)

GFP参画前(2018年)

2,100万円

+2,459万
(217%)

GFP参画後(2021年)

4,559万円

GFPを活用した輸出成功ポイント

地域一丸での輸出に向けた生産・販売体制の構築

課題1

農業者単体では輸出体制構築、ロット確保に向けたノウハウ・資金が不足

GFPグローバル 产地づくり

生産者による認証取得等のサポート体制構築

SDGsの潮流に合わせたコメの高付加価値化、村内生産者が認証取得を含めた生産体制構築に取り組む為の情報提供を実施



取得した認証

課題2

海外消費者のニーズに合った輸出向けの商品を開発する必要あり

GFPセミナー・ ワークショップ参加

健康志向の消費者向け商品を開発・販売

セミナー・交流会における情報交換の場で、海外消費者のトレンド・ニーズを把握。また商談会参加により、現地事業者からの情報も収集



GFP超会議の様子

課題3

大ロットの輸出に繋がる商談機会を創る必要有り

GFP補助金を活用し商談会への出展

大手輸出事業者を中心とした商流構築

GFPの補助金を活用し、海外展示会・商談会に積極的に参加。現地パートナー・新規販路を獲得し、約400万円の輸出増加に貢献



香港FOODEXPOの様子

GFPを通じて～輸出取組の感想・今後の展望

協議会設立から5年が経過し、村内で輸出に取り組む会員も着実に輸出額を増加させてきております。今後は、海外からのニーズが特に大きいオーガニック米等の高付加価値商品の生産拡大と、関連する認証取得に力を入れて取り組む上で、GFP補助事業・マッチングイベントやセミナー等を活用していきたいと考えております。



協議会メンバーの皆様